大　学　生　活　紹　介

興味があることに忠実になるべきです。

雨田 まなつさん

東京芸術大学 彫刻科２年
2020年度 彫刻専科／2021年度 彫刻本科
旭丘高校出身

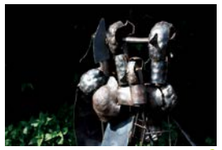
1

2

3

4

5


6

こんにちは！ 最近は蟻を追いかけ、地面の傾斜を測る日々です。
大学にはいろんな人がいて、非常にスリルがあります。教授たちからもたくさん興味深い話が聞けます。
真面目な話から素っ頓狂な話まで幅広く聞けます。
お金がないほど楽しく、ギリギリな生活ですが、生きるか死ぬか、忙しなく贅沢な時間の使い方ができますから大学はいいところだなって、本当に思います。
大学へ来たなら、嫌でも自分と向き合わざるを得ないものです。
そのときわからず全身全霊でつくったものが時間を纏って、良いものになったり、ならなかったりします。
つまり、間が空いてもつくり続けることが大事だと思います。
選び取り、今興味があることに忠実になるべきです。
皆さんにも是非、刺激的な学校生活を送っていただきたいです。
また会いましょう！

1. 木彫実習作品：日曜日
2. Stream展示作品：toothache 鼠
3. CasheCashe展示作品：Dilly Dally
4. 石彫実習作品：dud
5. 概念彫刻実習作品Ⅰ：どうして、ニワトリは道を横切ったのか？
6. 鉄実習作品：トーキング・ヘッド

自分の好きなものに自信を持ちたい!

成田 帆花さん

愛知県立芸術大学 彫刻専攻４年
2017年度 基礎高１・２年専科／2018年度 彫刻高２日曜専科、基礎高１・２年専科／2019年度 彫刻専科
旭丘高校出身

私が大学進学したわけをとてもかんたんに言うと、自信をもって自分の好きなものを好きだと言えるためだった。とにかく自信がなかった。

そんな私が４年間愛知県立芸術大学に通い、どんな生活、制作、考えになっていったのか参考までにお知らせしたい。

〈入学先〉

大学は、その中にも外にも魅力的なことがたくさんある。入学した彫刻専攻というものはただの入り口でもあるので、大学に入ってからは制作はもちろん、触れるものも立体だけではなく、平面やパフォーマンスそのほかなどさまざまな表現に触れる機会がある。大学内では作家に会えるし機会次第で話もできる、大学提携があるから美術館のハシゴをし放題。愛知県大の施設も一部使える。教職課程もある。しかも今後は彫刻アトリエが新しくなるなんて、最高では。

〈在学中の所感〉

私は制作を始めてからこれまで、どうしたら伝えたいことが表現で伝えられるんだ、ということばかり考えてきた。

しかし大学とは自分の好きなものを婉曲して伝えなくて良い場所だ。普通に生活するだけでどうせ誰かしらの迷惑になっているのだから、罪にならないように気をつけてやりたいことや好きなことをして謙虚に過ごせば良いのだと気づいた。

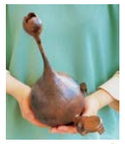
思えば私は高校に入学してからずっと、人へのこういう伝え方もあるのか、と日々他人のさまざまな表現を知るばかりだった。また興味の分野が近い友人と話すことは楽しいし、勉強になる。そのうち私の場合、好きの共感者さえつくれたら入学目的達成だと気づいたため、そこかしこに切り込んでいけば良いだけになった。

〈最後に〉

つい先日コロナ禍初頭の入試を乗り切り入学したような気がしていた。私は挑戦と脱力を繰り返し、早いもので大学生活も残すところあと１年を切っている。

今なら確実に、以前よりも自分の好きなものに自信を持てる。大学はものをつくる機会も見せる機会も休む機会も思うよりたくさんある。つくることや考えることが好きな人、大学にぜひおいでください。これを読むあなたが大学進学問わず、楽しい生活を送れますように。

1


2

3

1. 謝罪エクスプレス　2. 失言未然防止装置　3. かためのプリン-さくらんぼ-

OB・OGからのメッセージ

ものづくりの楽しさを感じました。

中島 聖二郎さん
沖縄県立芸術大学 彫刻専攻 助教

沖縄県立芸術大学 造形芸術研究科 環境造形専攻 彫刻専修修了
名古屋造形大学 造形学部造形学科 彫刻コース卒業
2009-2010年度 基礎高１・２年専科／2011年度 彫刻専科
北高校出身

私は小さなころからものをつくることが好きで、時間があれば常に何かをつくっていました。

河合塾に入塾してからは、日曜日がくるのが楽しみで毎週ウキウキした気持ちで通っていました。

中学３年生になり美術高校への進学を迷いましたが、「楽しい」という気持ちだけで美術を続けていけるのか不安になり、普通科の高校へ進学しました。しかし、美術（ものをつくる）の楽しさを忘れることができず、基礎高１・２年クラスへ入塾しました。そこで、日本画、油画、彫刻、デザインを一通り経験し、今までデッサンや色彩構成しか経験していなかった私にとってどれもが新鮮でとても楽しかったのを覚えています。

その中で一番楽しかったのが彫刻でした。

高校３年生になり、美大に進学することを決意し彫刻専科に進みました。

が、、、そこで待ち構えていたのは、自分のデッサン力の無さでした。それまでは「楽しい」の気持ちだけで行ってきた制作が「受験、試験」という「楽しい」の気持ちだけではどうにもできない壁にぶち当たりました。自分とは比べ物にならない程のデッサン力のある先輩や同級生に囲まれ、デッサンコンクールではいつも最下位。

それでもあきらめずに続けられたのはともに頑張った同級生や楽しく指導してくださった先生方のおかげです。

いよいよ受験、そして結果は惨敗。

浪人をすることができなかったため、滑り止めで受かっていた名古屋造形大学に進学することになりました。大学入学後は夜遅くまで大学に残り制作に励みました。卒業後は沖縄県立芸術大学の大学院に進学しました。

慣れない土地での制作活動はまるで河合塾で初めて彫刻を経験したときのように楽しく、改めてものづくりの楽しさを感じました。その気持ちを糧に大学院では国内はもちろん、海外の展覧会にも積極的に参加し、その成果が認められ、沖縄県立芸術大学の教育補助専門員として勤めさせていただきました。また、専門員期間中も積極的に個展やグループ展に参加し、今は同大学の助教を務めております。

河合塾では、デッサンなどの技術はもちろん、どんなところでも制作を続けていけるようなハングリー精神も学べたと思っています。

苦労はありましたが、河合塾で学んだことは今の自分にとってとても実のあるものでした。

1

2

3

4

1. stamp　2. How about a drink　3. PET bottle carrier　4. Nabi swing